# 建　造　物　の　部

## 迎称寺（こうしょうじ）　京都市左京区

本堂修理　　桁行 9m、梁行 9m、入母屋造、桟瓦葺

概　要

　迎称寺はかつては一条堀川にあり、もとは天台宗だったが、鎌倉時代には時宗に改め、のち京極一条に移転している。さらに江戸時代の元禄５年（1692）に寺町一帯の火災により焼失し、翌元禄６年（1693）、鴨東の現在地に移る。

　今回、修理を行った本堂は、瓦銘により宝暦６年(1756)頃に建立されたものと考えられているが、経年による瓦のズレが生じ、水がまわった正面向拝蟇羽（けらば）部の一部が崩壊しかけているため、屋根廻りの修理を行った。

迎称寺の本堂

## 龍安寺（りょうあんじ）　京都市右京区

庫裏玄関修理

概　要

　龍安寺は、臨済宗妙心寺派の寺院で、室町幕府の管領職にあった細川勝元により宝徳２年(1450)に創建されている。現在の伽藍は、寛政９年(1797)の火災後に再建されたもので、今回修理を行った庫裏も同じ頃に再建されたものと考えられている。庫裏は僧侶の居住する空間で、寺院の玄関としても使われている。切妻造の本瓦葺で、修理対象の玄関部分は入母屋造、柿葺（こけら）きである。穴があいていたり、柿が減るなどの個所がみられ、雨漏りが懸念される状態であるため、同様の柿で葺替えが行われた。

龍安寺の庫裏玄関

# 美術工芸品の部

## 海福院（かいふくいん）　京都市右京区

襖絵修理

概　要

　海福院は、戦国時代の武将福島正則により創建された臨済宗妙心寺派の塔頭寺院で、今回修理を行った曽我蕭白（しょうはく）筆「紙本墨画李白観瀑図（かんばくず）」４枚は本堂にはめられた襖絵である。向かって左２面には橋上を渡る高士と２人の童子が描かれており、高士は左脇を童子に寄りかかり、またもう一人の童子に右袖を引っ張られながら、顔を右上方の滝の方に向けている姿から酔態する李白の「観瀑」を描いているものとみられている。正確な制作年代は不明であるが、その作風から、明和年間（1764～1772）頃の作とみられている。全体的に経年劣化により亀裂が生じていること等から修理がお行われた。

海福院の障壁画
下段は上段□の拡大図

## 雲龍院（うんりゅういん）　京都市東山区

仏像修理

概　要

　雲龍院は、泉涌寺山内にあって別格本山の寺格を有する真言宗の別院である。

　今回修理を行った木造不動明王脇侍二童子は中尊である半跏像とともに正保３年(1646)頃までに建立された現在の本堂である龍華殿に安置されたものとみられている。二尊ともヒノキ材の寄木造で、彫眼、彩色仕上げを施し岩座上に立つ。左脇侍は慈悲を現わす矜羯羅童子（こんがらどうじ）で、右脇侍は忿怒を現わすの制吒迦童子（せいたかどうじ）である。二像とも全体に亘り各接ぎ目に緩みや離れる箇所が見られ、彩色部分に剥離や剥落箇所があること等から修理を行うこととされた。

雲龍院の木造不動明王脇侍

（左：制吒迦童子　右：矜羯羅童子）